

第4回 網走川ほか減災対策協議会 議事要旨

日時：平成30年6月27日（水）10:00～12:00

会場：大空町役場 議事堂文化ホール

出席者：網走市副市長、大空町長、美幌町防災危機管理主幹、津別町長、網走地方気象台長、陸上自衛隊第6普通科連隊副連隊長、北海道警察北見方面本部警備課長、網走地区消防組合消防長、美幌・津別広域事務組合消防長、オホーツク総合振興局副局長、網走開発建設部長

《議事内容》

- (1) これまでの経緯と取組方針
- (2) 幹事会報告
- (3) 規約の改正
- (4) 取組状況のフォローアップ・評価
- (5) 平成30年度以降の取組
- (6) 今後のスケジュール(案)

《委員等からの主な意見》

【(4) 取組状況のフォローアップ・評価】

(網走市)

- ・迅速な避難活動をするため、避難所運営訓練をゲーム形式で行うHUGを市内10の地区を対象に行った。講習会・研修会でお知らせするよりもゲーム形式で参加しながら、かつ、地域のコミュニケーションの取りやすいようにゲーム形式で実施した。実際に避難所を運営するに当たっての考え方や対応手法を確認した。
- ・自主防災組織を組織化していきたいと考えている。自主防災組織の組織率を向上させるためゲーム形式で参加してもらうことにより組織率を高めていくことを目標としている。自主防災組織率よりも町内会の組織率の方が低くなってきており、高齢化で町内会自体も無くなってきている。
- ・効率的な排水活動を行うために市内3箇所に常設電源を設置した。

(大空町)

- ・防災マップを更新し各戸に配布した。改めての住民への注意喚起を行っている。
- ・ここ6～7年は、9月の第1日曜日に防災訓練を実施している。毎回地区を決め多くの方が参加できるように取り組んでいる。
- ・排水対策として、町で保有している水中ポンプ等4台のほか民間事業者からリースで対応している。H28には津別町からポンプを借りて対応していたが、昨年、水中ポンプ・移動式ポンプを6台（防災3台、農業3台）購入した。あわせて、非常用電源の確保も行ったところである。
- ・国と一体となって女満別湖畔地域に河川防災ステーションの整備に取り組んでいきたい。非常時には当然、河川防災ステーションとしての役割が中心となり防災拠点となるのですが、平常時には、コミュニティ施設、防災教育の拠点として、地域住民の意識向上につながる施設として、整備の段階から町民の皆さんに施設の活用や地域活動についてPRしていきたい。

(美幌町)

- ・平成26年度から各世帯に非常用持出袋を配布して、防災意識の高揚を図っている
また、今年度からは転入者にも非常用持出袋を配布し、防災ガイドブックも併せて配布している。
- ・職員の意識向上として、災害時の初動対応カードを職員に配布し、事象に応じて職員自らが参集する仕組みを作った。
- ・自治会や老人クラブ等の各種団体の防災意識高揚を図るため、防災に関する出前講座を行っている。
- ・要配慮者の避難所に必要な資機材を整備した。

(津別町)

- ・住民を対象とした防災研修を開催した。その際、要配慮者名簿の個人情報の取り扱いについて注意を促した。
- ・自主防災組織の組織化を促すための出前講座を随時開催している。
- ・過去に水害のあった場所に発電機の設置を検討したが、常設ではなく、業者と協定を締結して対応することとしている。
- ・消防団と協議して、役場職員と協同で土のうを作成し、消防の分団に配布済み。その土のうはまだ使用していない。数量については、今後精査していく。
- ・防災計画や水防計画の見直しに向け、委託業務を発注済み。これらを基にハザードマップを作成し住民にパンフレットとして配布したい。

(網走地区消防組合)

- ・消防署との初動対応が大事。
- ・平素から水防訓練、水難救助訓練を実施しており、住民に対しても訓練を促している。
- ・水防資機材を常に点検し、維持管理している。
- ・関係市町村と重要水防箇所の共同点検を実施している。

(美幌・津別広域事務組合)

- ・自治会連合会主催の自主防災訓練に積極的に参加している。
- ・平素から各種訓練を実施している。
- ・町民に分かるような形で消防署のことを理解してもらえるように取組を行っている。

(北海道警察北見方面本部)

- ・平素から自治体や関係機関の防災訓練に参加している。
- ・H29から気象台職員を講師に招き、職員の防災意識に関する教養を高める取組を行った。
- ・老人クラブや町内会等に職員を派遣し、避難行動のための必要な情報提供をしている。

(陸上自衛隊第6普通科連隊)

- ・リエゾンや一部の自治体に先行して派遣しており、情報収集に当たっている。
- ・自治体の防災訓練への積極的に参加している。
- ・防災担当者間で顔の見える関係づくりを行うため、自治体の防災担当者との合同勉強会を開催した。

(網走地方気象台)

- ・ 気象情報の改善を行った。
- ・ 講習会や出前講座の実施に気象台の職員が出向いて協力を行っている。
- ・ 管内市町村に出向き、防災担当者の方々との情報交換を行い、顔の見える関係づくりに取り組んでいる。

(オホーツク総合振興局)

ハード対策として2点

- ・ 危機管理型水位計の整備として、網走川水系については今年度から3ヶ年で12基設置する予定。設置位置等は関係市町村と協議していきたい。
- ・ 河川内樹木の伐採について、「河道内樹木伐採などの河川維持管理のあり方」を平成29年3月に作成し、昨年10月に河川毎に実施計画を作成した。優先度の考え方を踏まえ、計画的な維持管理の実施に取り組んでいく。

ソフト対策として2点

- ・ 道庁危機対策課において自衛隊OBを採用しており、市町村が実施する防災訓練の実施に当たっての企画、立案、助言などの支援を行うこととしているので活用いただきたい。今年度は、湧別町と滝上町がエントリーしている。
- ・ 自主防災組織に関する支援について、地域防災マスター認定講習会を開催し、災害時に地域住民のリーダーとなる方々の育成に取り組んでいきたい。

【(5) 平成30年度以降の取組】

(網走市)

- ・ 市内の企業が地域FMを開設するため、これを使用して、災害時の広報にFMラジオを使い、情報が届かない地域への防災情報を発信できないか検討している。今年度中にテストを行う予定である。
- ・ 引き続きHUGを行うが、今年は小学校を対象に1日防災学校を実施し、子どもたちに防災について情報を知ってもらう取組を行う。
- ・ H26に作成配布しているハンドブックを見直し、道河川の情報も含めて更新したい。

(大空町)

- ・ 職員の(いろいろな災害を想定した)行動マニュアルを整備したい。
- ・ 要配慮者の防災について、地域の福祉施設との協定を結んでいる。具体的な内容は今後さらに詰めていきたい。
- ・ 河川防災ステーションの整備を確実に進めることで、地域の防災意識の高揚を図りたい。
- ・ 自主防災組織の立ち上げを奨励している。実際に被害にあった地域に重点的に個別に事例を紹介しながら立ち上げを促したい。(特に水防関係の自主防災組織の活動が頻繁にあると見込んでいる、網走川左岸・右岸側の地域(住吉・本郷・湖畔地域)を想定)
- ・ 農村部における光回線と無線を活用した高速ブロードバンド化の計画を進め、防災としての活用方策を考えており、活用事例を調査していきたい。
- ・ 農村部の道路、排水路、河川を含めて一体的に管理をするため、第3セクターの組織を立ち上げている。(その組織が中心となり)H29年度は、土のう作り講習会の開催、河川の雑木の除去、除草、排水路の土砂撤去を実施しており、結果として、

- 排水対策に繋がっていくのではないかと考えている。本来は農業分野の組織ではないが、これらの活動が防災にも繋がるという意識を持ちながら取り組んでいきたい。
- ・ 気象台の説明会は大変助かっているが、これをテレビ会議で各市町村・関係機関で実施することはできないか。地域として会議ができる仕組みがあると連携が深まる。

(美幌町)

- ・ 平成32年に防災無線の更新を予定しているので、更新に向け必要性や費用対効果の検討を進めていく。
- ・ 今年度、ゼンリンのシステムを活用して、防災ウェブマップを立ち上げる予定。ゼンリンの地図データと浸水区域のデータをリンクさせ、避難場所も表示させる地図システムを構築中。運用時期は調整中。
- ・ 自主防災組織の結成促進に関して、市街地は組織率が高いが、農村部は組織率が低いのが課題である。
- ・ メール配信サービスについて、今一つ加入者数が伸び悩んでいる状況にあるため、積極的にPRして利用促進を図りたい。

(津別町)

- ・ 防災計画や水防計画の見直しを進めていきたい。それを元にパンフレットを作成し町民の防災意識を高めたい。
- ・ 災害の発生に備え、現在の避難所の点検を行い、住民が避難できる体制を整えたい。
- ・ 春の雪解けの時期に、流氷みたいな塊が河川に発生し、川の水が越水して畑や牛舎に入るなどし、本岐の市街地まで国道が通行止めとなり民家への浸水の恐れがあった。消防団や建設課のおかげで事なきを得ている。このような事象への対応も必要と考えさせられた。
- ・ 減災対策協議会の合同開催を機会があれば他の一級河川の上流域にある町村との情報交換を行ってみたい。

(網走地区消防組合)

- ・ 昨年同様の取組を実施したい。
- ・ 常呂川では平成30年度にタイムライン作成の基礎的な検討に入っていくようであるが、網走川では平成30年度は何も実施しないようであるが、タイムラインは非常に大切なものと思われるため、早めに策定できるよう取り組んでもらえないか。

(事務局)

- ・ 平成28年度に一番被害を受けた旧常呂町区域で今年度から作成に取りかかる。地域を代表して、地域の特性を踏まえたタイムラインを一度作成するので、その状況を一度見ていただきたい。まずは専門家に地域の代表として作っていただき、その結果を踏まえこの地域全体にフィードバックしていくことで考えている。

(美幌・津別広域事務組合)

- ・ 引き続き訓練や災害対応に取り組んでいきたい。

(北海道警察北見方面本部)

- ・ 事案や被害があった場合、110番や119番に早めに通報していただきたい。
- ・ 情報を入手した場合、直ちに必要な自治体へ情報共有を行うことを考えている。顔

の見える関係を築いていきたい。

(陸上自衛隊第6普通科連隊)

- ・今年、駐屯地の防災担当者が集まる勉強会、災害対象研修会でUTMIについて使い方などの説明をしていきたい。
- ・各自治体のハザードマップを活用して、被害予想地域やその周辺での徒步行進訓練を行い、訓練を兼ねて駐車場所、ヘリコプターや重機の下ろす場所等の地域の特徴を把握したいと考えているので協力いただきたい。
- ・災害対策本部の訓練があれば、積極的に参加していきたい。特に、自衛隊は避難救難、被災者の生活支援の両方に携わるため、災害対策本部の中でそれぞれ必要な情報を集約して対策本部長の望むような情報の集約の仕方をほかの自治体での参加事例を踏まえ提供できる。

(網走地方気象台)

- ・全庁的に地域防災支援強化に取り組んでいる。その中で、情報共有・地域との連携は必要と考えている。管内の市町村に出向いて防災担当者と打合せしているので、意見等を出していただければと思う。要望があれば申し出てほしい。
- ・1日防災学校には気象台も参加する予定。出前講座や講習会には引き続き積極的に実施していきたい。
- ・6月20日から、降水短時間予報が6時間先までから15時間先までに延長された。台風等により夜間から明け方にどこで大雨となる見込みかについて、夕方の時点で把握できるようになるため、防災対策に利用していただきたい。

(オホーツク総合振興局)

- ・災害を未然に防ぐ、あるいは被害を拡大させないためには、情報を早く入手することが非常に重要であり、被害に関する情報を入手できる仕組み作りが必要。
- ・平時の時からどのような行動をとるのかお互いに共通認識を持つことは非常に重要と考えている。

【その他】

(事務局)

- ・テレビ会議は、可能性を含めて長期的に検討していく。
- ・アイスジャムについては、今年、全道のアイスジャム災害の勉強会を立ち上げており、今後どのように防災に結びつけていくか検討していきたい。今回、国道の通行止めもあったため、(津別)町の関係者にも機会があれば案内したい。

以上